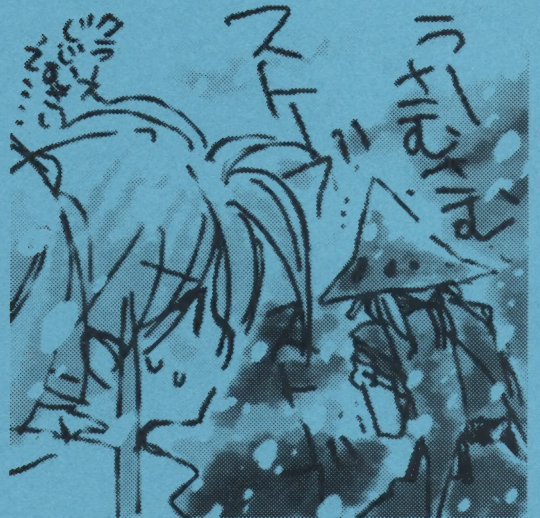




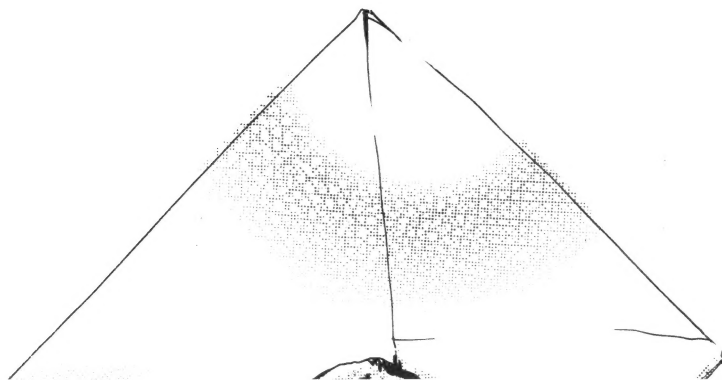
Daybreaks
Tales of Phantasia

Day breaks



Tales of Phantasia

『アルヴァニスタ国王より
コモンエルフ族族長
ブラムバルド殿へ』



おとーさん
あたし行ってくるよ

何も変わらないかもしれないし
何か変わるかもしれない
かけひきとか難しいこと
なんてわかんないし！

ずっと考えてみたけど
ドキドキするだけで
結局当たって碎けてみる
ことにしたの！

ユミルに――

エルフの里に――

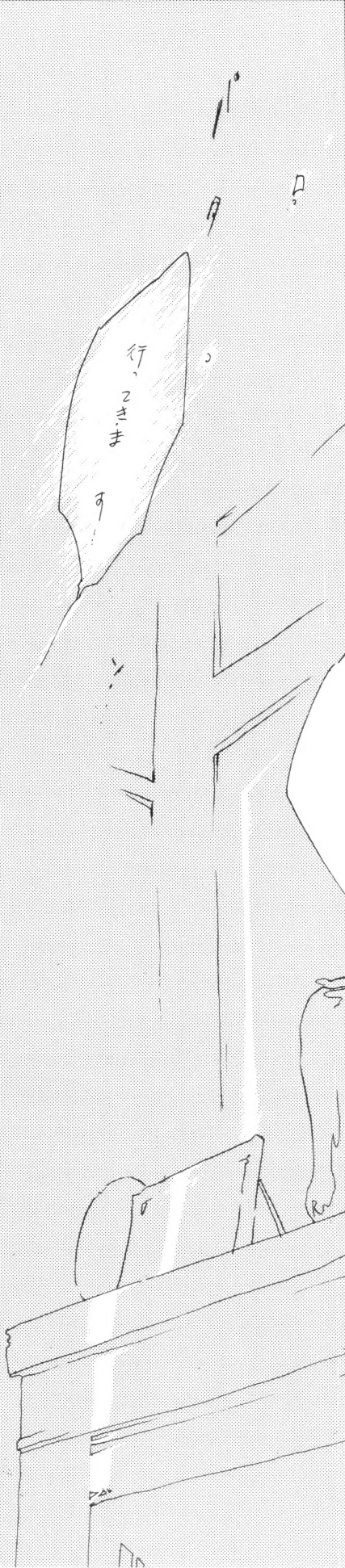
おかあさんに会いに



もっと
森の解放が
早かったら



おとうさんだけでも
おかあさんに会いに
行けたのにな...?





●あやむい●

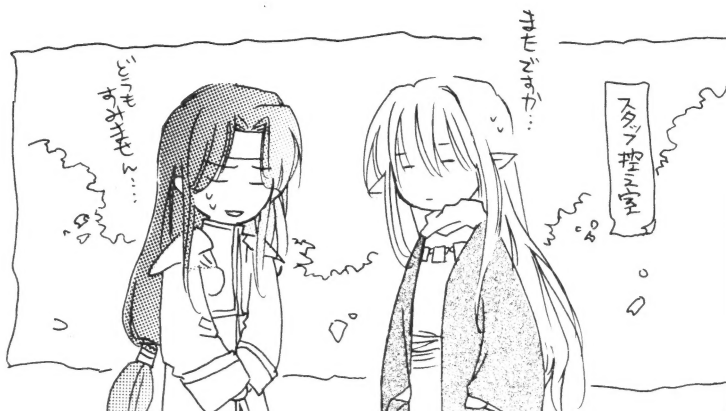
「DOOR」に描いたアキとルーングロウさんの
お話は連作ものです。それを毎回次々
は掲載。次こそは出ると言い続けて早数年。
昨年はついに予告編まで作ったのに、またし
もオキましたとさ……ッ

ホントにすみませんッッ

表紙のアキちゃんにーッ

「いつかとはいいだ！」

©南国少年ハコウの君……夏かな……(泣)





ハロルド――

何だコレは

見てのとおり
土産だよ
土産！

いやあの時期の
フレイランドは
暑いし砂嵐がひどいし
ミッドガルの復興は
今一つだし今回の
視察は散々だったな！

そうか…

どう見てもただの
ビンにしか見えないし
そもそも公務の度に
土産を買ってくるなど
言っているはずだが？

経費や差とて
どうでも良い
本質は回すところ…

そう言うな！
何の変哲もないビンに
見えるが、モーリア坑道
最下層で見つかった
ドワーフ製のもの
らしいぞ？

無断で持ち出したとか
言ってくれるなよ

ドワーフ…

おん

おん

なんだ

やっぱり何も
入っていないじゃ
ないか

おかしいな…
そんなはずはないぞ
何か感じないか？
気配とか匂いとか――

ハロルド…お前一体
何をつめてきたんだ？

…ユミルの――
エルフの里の空気だ

まさか——
これのためにわざわざ
ユミルの森へ？

あー…ああ、まあ、
たまたまエルフの里の
交易権の件で
寄る機会があつてだな

まあ、アレだな
空気なんてものは
ソレとわかるもん
でもなし——

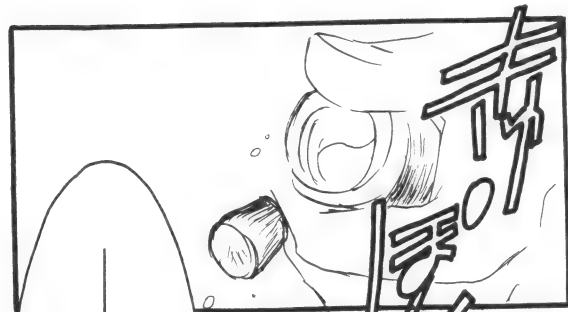
いや、

そうでもない

ありがとう…
お前の今までの
土産の中では
一番気がきいてるよ

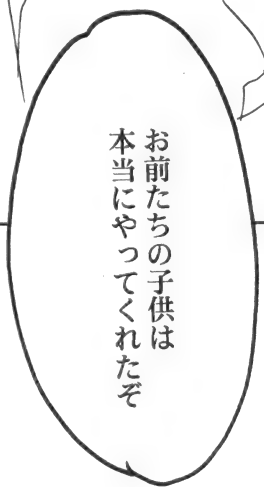
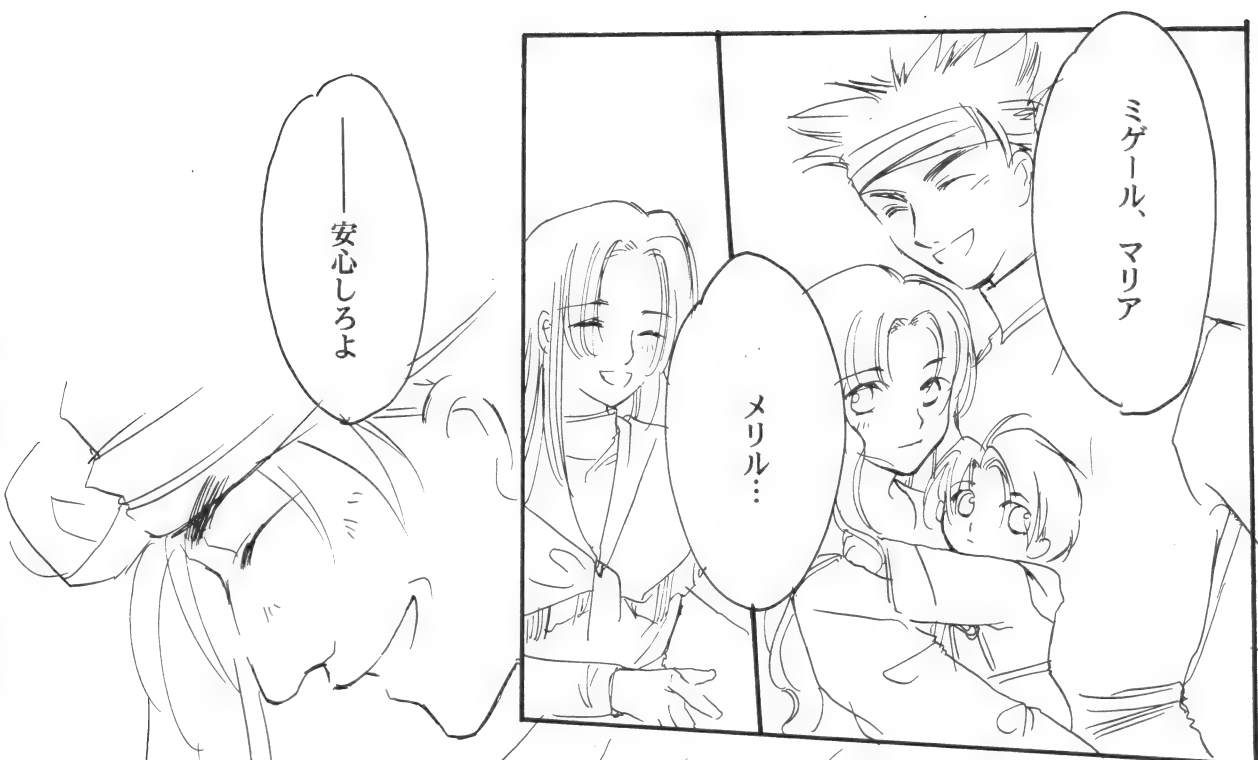


ああ
トーティスも変わったな..
だが風はあの頃のままだ



——久しぶりだ







本当にあれで
よかったのか

あれしか方法が
なかったのか

どうしても
心に残るんです——

お前たちの子は
痛みを知る よい子に
育ったよ

ポタン
。。

すまない……

。。
ポタン

お前たちを
救えなかった

お前たちには
守るべき者がいたのに
予知していたはずの
私は何も――

憎まれるのは自分だった
狙われるのは
自分だけでよかった

あこのころの
全ての時間を共有した

かけがえのない――

全てを奪われ 全てに心を残すだろう戦友よ

お前たちの分まで
私を守る
心配するなよ



もっともお前たちの子だ
私の助けなど
いらんだろうがな






さらば

友よ



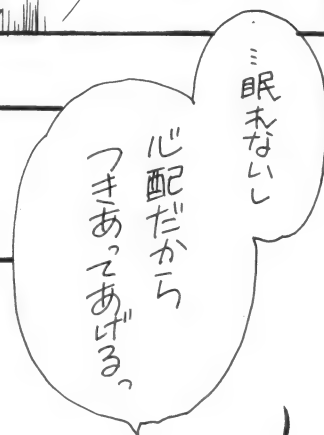


ダオスまで、
もう少しだよお

とこつたな

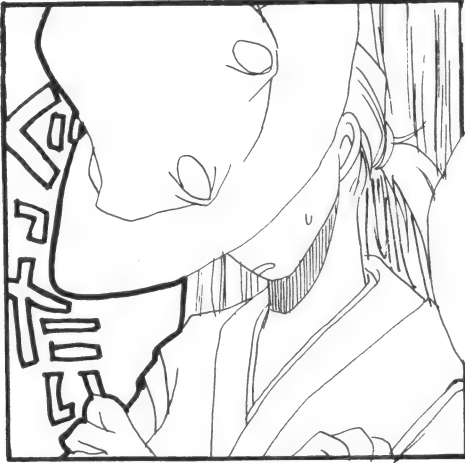
ここまでは
長かったよおえ

ああ





あー……

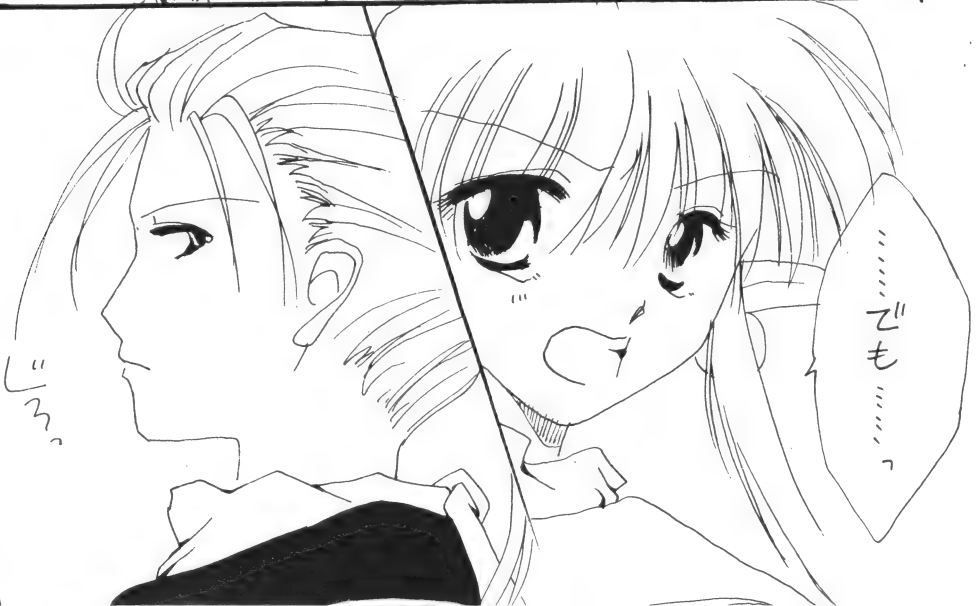


この状態じゃ
俺かやるしか
ないだろ



でも……
だからってチェスターまで
寝不足になっちゃったら
元も子もないじゃん

おい
静かにしろよ
起きちまうだろ



……でも……



う……

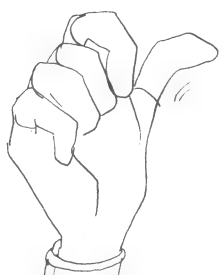


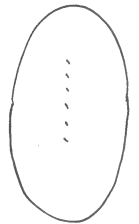
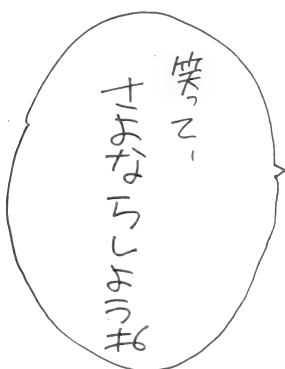
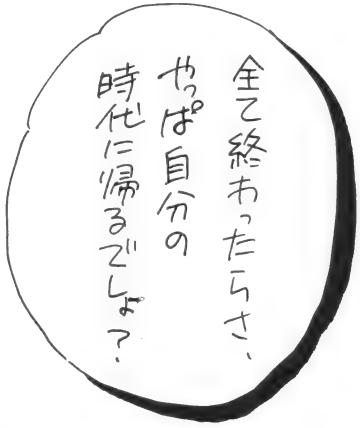
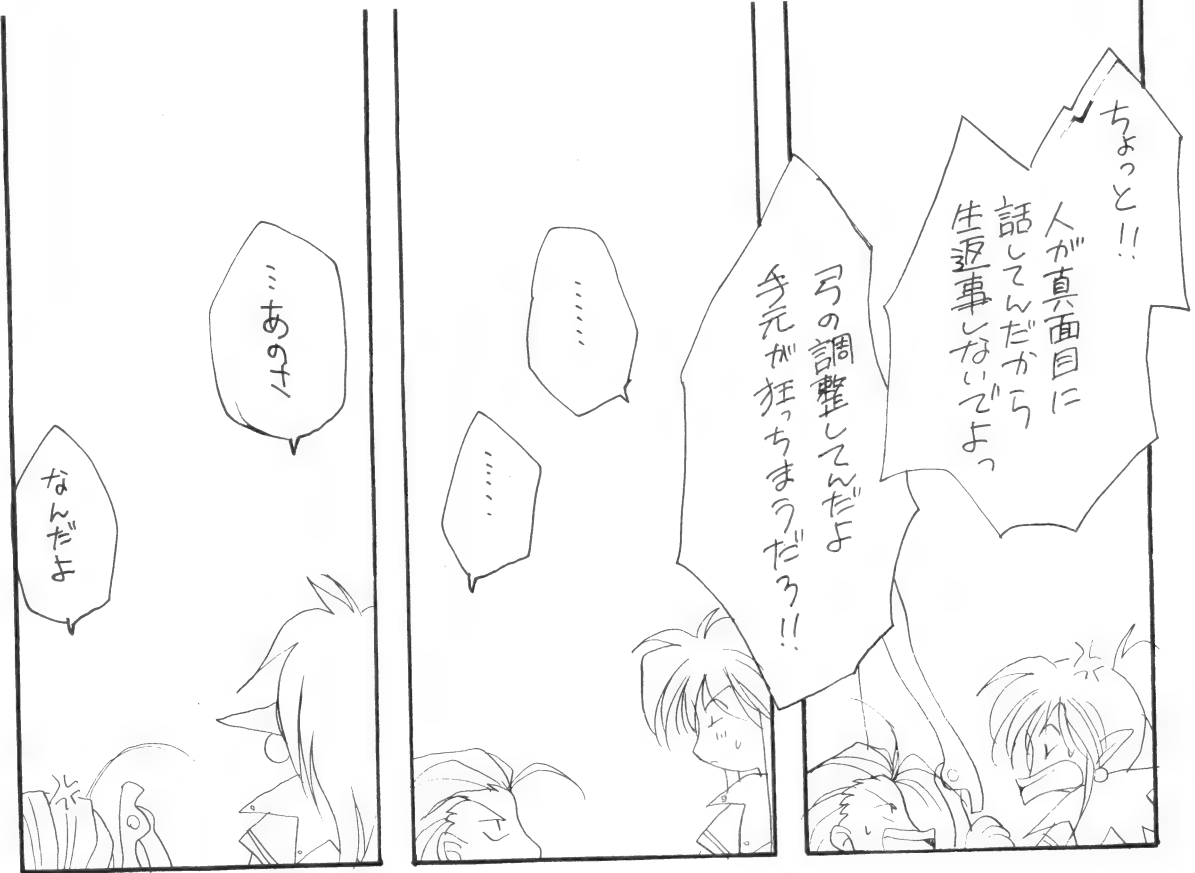
パチパチ...



どういたのマー
昨日も見張り
やったじゃん

く
く







バーカ

お前の場合、
「またお」だろ

灯した明かりが消えない様、想い続けよう

うっ...

うっさいなーもー
せーかくシリアスに
言ってるのワ
ー

バーカ
似合おえいたよ

クラス！

もう、床でなんて
寝ないでよ！

全く、

この所
毎日じゃない

今そんなに
せっぱつまって
いるわけ？

ん！…

ん…

カチャ

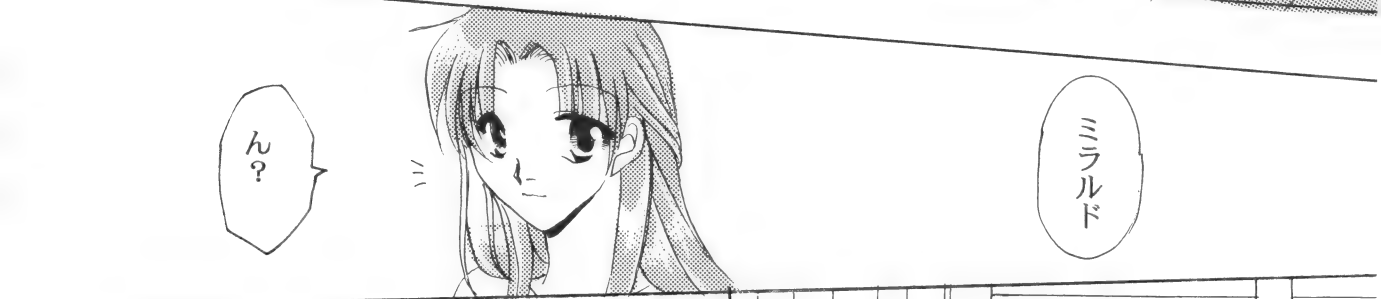
気持ちは
分かるけど

身体が
資本なんだから



倒れてちや
元も子も
ないでしょ

ノってるのなら
尚更よ



ミラルド

ん？



荷物でも
持とうか？

え？

街のほうまで
買物に行く
つもりだったけど…

今日は、
出掛ける予定は
あるのか？

なっ…
何かあたのよ、
どういふ風の吹ま
回しー…?

…

只の…
気晴らしだ

なんて
言っただけど

くら

私には分かる

買い過ぎだぞ
ニギハ

何か、隠してる

全く
何年付き合つてると
思ってるのかしら

あー、折角
荷物持たないで
おー

いつだって
誰よりもそばに
いたんだから

ねえ、クラス

…あのね

何かあったら、
いつでも言ってね

もちろん
気が向いたらで
いいから

昔、決めたよね

2人で何でも
解決しようって

私は、あなたの
助手なんだから

おい、
主!

いつまで
見え見えのこまかしを
続けるつもりだ！

気付くのも
時間の問題だぞ

主の演技も
イマイチだしな

カサ

…私は

あの旅で
思い知らされた

もう、

あいつには心配を
掛けさせたくない

…

その心構え
だけは
立派だな

じゃ



おっはよー
です！

4
ユ
ニ
キ
ユ
ニ



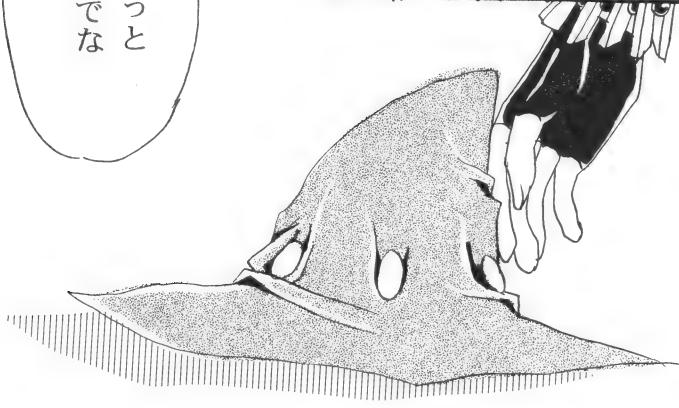
アーチエ

あー……

また床で
寝こもー
↓

え？
アルヴァニスタへ？
急な話ね……

あぁ
ちよつと
急用でな



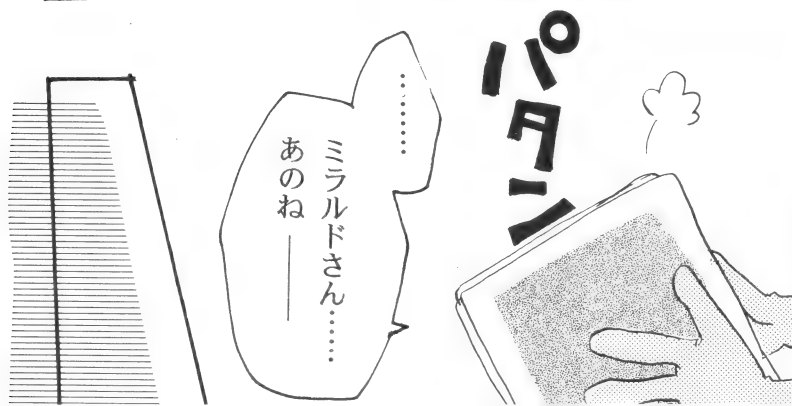
アーチエと一緒に
留守番して
くれるそうだ

よろしく



どうして？

1人で留守番するの……
ちょっと怖い……



はな

では、やはり…

そうだな
調べてみたが…

ミッドガルの
魔科学研究所を
除籍された一味は
確かに存在した

しかも、精霊の力を
利用した兵器の開発を
進めていた

君達の事に
詳しい理由も分かった
とんでもない相手と
組んでいるぞ

……
そう言えば

君の助手は
知っているのか？

…いえ

心配は
かけたくないの

…あのね

あたし、ミラルドさんは
頭いいし、
大人だと思ってる

でもね、全部
「大人」である必要は
ないと思う

…そうか、でも

物分かなりや聞き分けが
良かったり、
意地を張るよりも

おこって泣いて
ぶつかって
本音を言ったほうが
いい時もあるよ

隠し事される方が
辛いかもしれない

相手が「大人」で
いてくれる事に
甘えてはいけないよ

彼女が
不安がるのなら
君が守ればいいだけの
話だよ

「永遠の後悔」ではなく
これから
私達の「未来」を
築くために



……



……うん
そうかもね

ありがとう
アーチェ

「2人で解決しよう」
なんて言っておきながら
私は何もしてなかったね

ううん！
大体クラスが
鈍いのも悪いよー！

2人でお茶を
飲みましょう

ふふ、

お茶でも
入れてくるわ

あ、
ありがとうー



たん

やほー！



絶対に
1人に
はなさない!!

はっ



バ
タ
ン



アーチエが
いるとはいえ

心配だな

何かしら
これ……

しかし
クラススの精霊を
奴らが狙っている
とすると……

彼女が危険なのは
確かだな……

あら



…魔術学の
学会から……？

……

キニ……

キヤ……

ガラッ

しかも印刷は速い、ポイントもLTだし... 写植は、この程度でいい...

(泣)
も
や

ごめんない
続キます

今、麻痺を以て縮集中……
ニヤニヤと云うて縮集するが、
いのかと頭を悩ましてはみる半
時向
つまらぬ嫌。俺は車をこめてやるだ
また「サッ」って言ってるさあめんだ
俺はわかったぜ!! (びり) ぞろ
で。
う。

切腹

アークのみ母さん
ニニではSF版の「ルーテ」で。
PSでは「ルーク」でした。
まあルーテのままだとていたけど...

はみだし 脇キョ トーク...

よく考えずに
この →
純エルフなんて
アークとは
姉妹ぐらい
しか外見
はとてない
でかい。

アーク
母
(ルーテ)

淡い水色の髪と瞳の
エルフの長。
こんな姿ですがいたって年寄り。

人間様の村人と世の流れの向い ↑
本当に今のままだいいのか、少し
老え直しの苦学人。でも基本
はエルフらしく
人間否定派。

お父さんと
出会った時の
娘時代そのま
の姿。
ジジイに育って
16才のヨメと
なっちゃ...
4エスか!!
ア

だって
ルーナちゃん
ブラババットも
過去 → 未来向に
外見変わってませんから
アーク産んでからの
16年分まで毎はくんだは...。

→
ブラババット
さん

かつから
未来の向に
何かあま
のか
くさくさ
人間を
受け入れ
はじめて
いる。
でも
にーアーク
はあかん
らしい...

次回まで
この設定を
覚えておくと
大役読みやす
くなります。
ミューサンターな...

ミッドリム設定
ではガムとは
血縁関係。
モリスン(人間)との付き合い
を不安に思っている(笑)

青い空が嫌いになった
シチューの味がしない
黄色い花は見たくない
川に映る光はせつない
鐘の音は大嫌い

(父さんの瞳の色だから)
(母さんの得意料理だったから)
(最後にあの子が持っていたから)
(恋人達の笑顔が映らないから)
(あの瞬間を思い出すから)

何もかもが受け入れられないこの感情は

見せないから強いのではなく
見せないからこそ

強く 深く 幼く 醜く 突き破り 侵食してゆくようだった





——
ダオスカ…？

マルス——黒騎士だよ
あの時は騙されたけど
おじさんも必死だった
でも…連中の方が
徹底していたわけだ



僕が連中に引き渡されて
すぐのことらしい
おじさんだけじゃなく
一家全員…な

だめなのかな



やっぱり
だめなんだろうか

仇を討って、
それでもなお憎いのは
許されないことなのかな…？

知るかよ

俺だってそんなに
出来た人間じゃあ
ないんだ

人のことまで
正しいとか間違ってる
とか判断できねーよ

アミイなんて
まだ8才だったんだぞ

それでもって
俺たちはまだ16才だ

ぐだぐだと
根に持ったって
仕方ないか
思わないか？

ふ、思ふやないか。

だよなあ

そーだよ

あー、あー、
ふふふふ



つらいことも 幸せなことも
あるがままに



「勇者様」でも
「伝説の剣士」でも
ましてや「世界の代表」でもなく

やっと
ただの「子供」でいても
許されるようになったんだな

前を見続け、
歩みを止めないために

無意識に押さえ込んでいた「自分」を

それすら叶わなかった「非」 日常は終わり ぼくらは足下に転がる幸せを育て 生きてゆく

夢を見た数だけ、
じの中に星が
ある。



PRESENTED BY KISARAGI-DO

2003/05/04

[SO-MAUO]

<http://jump.uic.to/mauo/>
mauo@kaddy.net

[KIKUMARU-TAKATSUKI]

<http://w2222.nsk.ne.jp/~kiku/>
kiku@p2222.nsk.ne.jp



Tales of Phatanasia

2003.05.04

Kisaragi Do Presents

Works by

So Mauo & Kikumaru Takatsuki

“ D a y b r e a k s ”